

# ちいき人権 World

発行  
2025年度 秋号 (No.120)

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会  
委員長 土田 紀康  
連絡先 TEL 072-924-9853  
FAX 072-924-0134  
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会

## 世界人権宣言パネル展



9月20日(土)に行われた世界人権宣言パネル展に今年もひゅーペンが登場しました！ぬりえのコーナーでは、自分が塗った絵をひゅーペンに見せに行く子どもの姿もあり、楽しい一日となりました。

### も く じ

- 2 P..「外国人が優遇されている」という言葉の陰で  
——社会の“分断”を感じる日常から
- 6 P... 障がい者と人権を自分ごとと考えるために  
~NHK『バリバラ』を通じて伝えたかったメッセージ~
- 7 P..... 八尾市民のパレスチナ学習会
- 8 P..... 八尾市人権啓発推進協議会  
第1回人権啓発推進委員養成研修  
/ 映画「52ヘルツのクジラたち」上映会
- 9 P..... 2025年度じんけん楽習塾報告
- 10 P..... 世界人権宣言パネル展
- / 八尾市立図書館と八尾市男女共同参画センター  
「すみれ」とのコラボ企画  
『脳トレ クイズラリー』の開催
- 11 P..... 白根さんと考えよう！世界の人権54
- 12 P..... 出会いを楽しんで…part 4
- 13 P..... うーさんのおすすめ本  
/ じゃりちえ日記
- 14 P..... 気ままにおしゃべりシネマ62
- 15 P..... 勝手にきやらふる84
- 16 P..... ひゅーまんフェスタ 2025

# 「外国人が優遇されている」 という言葉の陰で—— 社会の“分断”を感じる日常から

2016年に「ヘイトスピーチ解消法」が施行されてから、まもなく9年になります。この法律は、多文化共生社会を築くうえで大切な一歩となり、ヘイトスピーチの被害を訴える裁判でも援用されるなど、被害者救済の道を広げてきました。法律の前文には、外国にルーツを持つ人びとが地域社会から排除されるような言動によって苦痛を受け、社会に深い亀裂が生じている状況が明記されています。そして最後に、「このような不当な差別的言動は許されない」と力強く宣言されています。しかし今、SNSなどの場では「外国人が制度の上で優遇されている」といった根拠のないデマが広がり、それに呼応するかのように「日本人ファースト」という言葉が叫ばれています。そうした風潮の中で、法律が示した「亀裂」が再び社会に広がっているのではないかと懸念されます。今回の特集では、外国にルーツをもつ八尾市在住の3人に、いま感じていることや思いを語ってもらいました。



**Aさん：**  
「**区別**」という意識のなかで

Aさん（日本生まれの韓国ルーツ・30代・公務員・八尾市在住）は、日常の中で外国人への偏見の言葉に何度か出会ってきたといいます。「税金が高いのは、外国人に使われているからやる」と市民から言われたこともあります。「直接言われると、やっぱりつらい。制度のことを知らない人が多いんだと思いますが、外国人＝滞納しているという考えは誤りです。」と話します。

## SNSで広がるデマへの危機感

ネット上でも、選挙の候補者がデマを発信する光景を見て、Aさんは強い危機感を覚えたといいます。「以前は匿名掲示板でしか見なかったような内容が、候補者の言葉として流れてくる。深く考えずに信じてしまう人が増えていると思います」。

「日本人みたいなもんやな」と言われた経験もあるそうです。褒め言葉のように見えて、Aさんはむしろ嫌な気持ちになると話します。「『あなたは例外』と言われても、それでうれしいわけじゃない。結局、“外国人は悪いけどあなたは違う”という前提があるからです」。その根底には、“区別”の意識があるのだと感じています。

Aさんは、高校時代からの友人とは率直にこうした話ができるといいます。「話せる人は選んでいます」とも話します。信頼できる相手であれば、ルーツの話題を出すことさえためらうのが現実です。難波の美容室にいった時など、初対面の場では「外人いっぱいやったでしょ」といった言葉が自然に出てくることもあるようで、「観光業が潤っている面もあるのに、日本語を話す＝日本人としか思えない感覚が根強いと感じる」と言います。

選挙ポスターの掲示板を見るたび、Aさんは胸が痛むそうです。「学校の前に掲示されていることが多いですね。ルーツのある子どもがあの言葉を目にして、どんな気持ちになるのかと

思うと、本当に嫌な気持ちになります」。

## 偏見が刷り込まれていく危うさ

ネット上の差別的な書き込みは、無意識のうちに人々の心に沈殿していくとAさんは感じています。「ニュースのコメント欄では“どうせ韓国人やろ”という書き込みが当たり前のようにある。それを見続けることで、偏見がどんどん意識に刷り込まれていく」。Aさんは、自分の甥っ子がYouTubeで外国人を笑いの“オチ”にした動画を見ているのを見て、不安を覚えると話します。「大人でもつらいのに、子どもがそれを見たらどんな気持ちになるんやろうと思うと、胸が苦しくなります」。

20代のころ、自転車の盗難を届け出た際に警

察で名前を名乗ると、急に態度が変わった経験もあったそうです。「ちゃんと駐輪場に止めていたのに、『本当に止めたんですか?』と疑うような態度をとられたんです。レイシャル・プロファイリングを受けたような気持ちでした」。民族名で生きることを「今は正直、怖い」と感じるようになったのは、こうした積み重ねの中からだといいます。

Aさんは最後に、「必要なのは、正しい情報を見抜く力。学校教育の中で“ファクトチェック”の方法を学ぶことだと思います」と語りました。なりすましやフェイクニュースへの注意は浸透しつつありますが、情報の真偽を確かめる力はまだ十分ではありません。誤った情報が人を傷つけ、社会に“亀裂”を広げていく。そのことを、私たちは忘れてはならないと思います。



## Bさん： 「変な空気」を感じる日常

Bさん（中国ルーツ・4歳のときに来日・会社員・八尾市在住）はどうでしょうか。

「SNSでベトナム人実習生の生活を紹介する動画を見たことがあります。『外国人は税金を払わなくていいから仕送りできるんだろ』というコメントがついていて、そんなことはありえないのに、信じてしまう人がいるんです」とBさんはいいます。

外国人労働者を受け入れているのは、「企業が好きで雇っているわけではなく、人手が足りないからです。日本で人材が確保できないからこそ、実習生を受け入れている」と指摘します。それでも、「外国人が優遇されている」といった誤った情報が広がるのは、「過激で単純な言葉ほど人を信じさせる力があるからだと思います」とBさんは話します。

## 単純な言葉が人を動かす

学生時代、大学の先生から「人を信じこませるには、刺激的で単純なことを繰り返すのが一番」と聞いたことがあるそうです。「〇〇人はこうだ」という極端な言い方を続けることで、いつのまにか人々がそれを事実だと信じてしまう。その構造が、いまSNSの中で繰り返されているのではないかと感じています。「しかも、外国人は選挙権がないから、悪い噂を流しても政治的に影響を受けにくいんです」とも言います。

Bさんが最近強く感じているのは、「外国人の中でのランクづけ」だといいます。「フィリピン人実習生が“ベトナム人は日本語を覚えるのに、フィリピン人は覚えられないから頭が悪い”と怒られ、自分でも“僕たちは頭が悪い”と言っていたんです。とても悲しくなりました」。結局、わずか1年半で帰国せざるを得なかったその人の姿が忘れられないそうです。

TikTokなど短い動画の影響力も大きく、「短時間で印象だけが残る。“外国人は危ない”といった空気が、気づかぬうちに社会に広がっていく」とBさんはいいます。「最近、変な流れになってきていると感じます。言葉にしづらい“空気感”のようなものを感じます」。

---

---

## 話せない、でも気になる子どもたちのこと

家族でこの話題をすることはないそうです。「話しても出口がないから」と言いながらも、「子どもたちは心配です」と続けます。「子どもは何気ない言葉をそのまま覚えてしまいます。昔の自分も“郵政民営化”という言葉の意味もわからず使っていました。いまの子どもたちが“外国人を排除しよう”という言葉我真似してしまうような社会にならないか不安です」。

Bさんは、これからの子どもたちには“無理せず生きやすい道を選んでほしい”と思います。「外国人は外国人のままでいいと思っていた時期もありましたが、今は、守るためにそうせざるを得ないのかもしれない」。

### “純日本人”という条件

仕事で事務所を借りようとした際、「保証人は“純日本人”2人、しかも親族で経営者であること」



### Cさん： 偏見に揺れる社会のなかで

Cさん（日本生まれのベトナムルーツ・30代・会社員）は、外国人に関するニュースを見て、「外国人を嫌っている政治家がいる」「外国人差別のような発言をしている」と感じる場合があります。アメリカでの不法移民排斥の政策なども耳にしますが、日本の身近な場面ではどうでしょうか。Cさんは、「大きなデモなどは起きていないけれど、差別をする人がいないわけではないと思う」と話します。

### 情報を疑う力と、自身のルーツ

YouTubeなどで見かける短い動画では、一部だけを切り取った内容が拡散されていることも多く、「あれは信じていません。都合よく編集されていると感じます」とCさんはいいます。「そ

と条件を出されたこともありました。「思わず“純日本人ってどこまでのことですか？”と聞き返しました。結局借りられなかったんですが、そんな条件を満たせる人はほとんどいません」と苦笑します。

「外国人への対応策を作れば作るほど、『外国人だけ優遇されている』と感じる人が出てくる。けれど、本来は社会のルールにそって対応すればそれでいいと思うんです。悪いことをする人がいれば日本人でも外国人でも同じように扱えばいい。それだけのことなのに」と話します。

そして最後にこう言いました。「いまは、本当に変な空気を感じます。もし大災害が起これば、“外国人が井戸に毒をまいた”というようなことが再び起きてしまうのではないかと感じると、怖いです」。

“空気”という目に見えないものが、偏見を生み、人の心を縛る。Bさんの言葉は、私たちが今どんな社会に生きているのかを静かに問いかけています。

う思えるのは、自分にルーツがあるからだと思います。昔は外国人が少数派という存在であったため、物珍しい目線が気になり、今は以前よりも多国籍の文化が柔軟的に受け入れられる日本になり、冷静に見られるようになりました」と語ります。

しかし、永住権を持たない人や、在留資格が不安定な人たちにとっては状況が違います。『日本人だけが優遇されている』という話を聞くと、『自分も帰国させられるのではないかと不安になる人もいます。怖いと感じる人は多いはずです』とCさんはいいます。

Cさんの両親はすでに永住権を持っていますが、外国人に対するバッシングが強まると、「職場で偏見を持つ人が出てくるのではないかと不安を持つだろうな」Cさん。実際「昔、職場の同僚がいじめを受けて辞めざるを得なかったという話を両親から聞いたことがあります」と振り返ります。

Cさん自身はこれまで職場に恵まれてきましたが、それでも偏見を感じる瞬間があります。「『あの人〇〇人だから言っても理解できない』『あの人ニンニクを良く食べるからニンニクくさい』と言われているのを聞いた経験があります。残念だなと思いますし悲しい価値観だと思います。なので、そうかな？と言いつつ自分はそうとは思わないとさりげなく伝えます。でも、そういう発言をする人がいるのは確かです」。

SNSの影響で、異文化に触れ合う経験から自分で考える力が乏しくなる人が増えるのではないかと、Cさんは懸念します。「もともと偏見がなかった人でも、マイナスの情報を見続けることで考え方が変わってしまうことがあります。政治の世界でも、外国人を引き合いに『日本を良くしよう』という言い方をする人がいますが、それはおかしいと思います」と語ります。

Cさんはかつて技能実習生の研修機関で働いていた経験があります。「その人たちは一生懸命でした。今のように『外国人が日本人の仕事を奪っている』という言説を聞くと、とても胸が痛くなります。実際には、日本人が就かない仕事や続けられない仕事を支えているのは外国人です。都合が悪くなると外国人を悪者にするような風潮は、やめてほしい」と話します。

## 排除ではなく、共に生きる社会へ

「外国人が増えたらやばくない」といった言葉がSNSで広がることにも危機感を覚えています。「なぜ日本に外国人がいるのか、その経緯を知らない人が多いから、偏見が入り込みやすいのだと思います。もし外国人を完全に排除してしまったら、社会は成り立つのでしょうか。冷静に考えてほしいです」。

生活保護をめぐるでも、「外国人が3分の1を占める」といった誤解がありますが、Cさんは「外国人が増えている割には、受給者全体に占める割合は横ばいと聞きます」と話します。そしてこう続けます。「外国人といっても、在日コリアンもいれば、難民の人もいる。私のように日本

で育ち、日本の制度の中で生きてきた人もいます。そうした多様な存在をどう見てくれているのか、考えてほしいです」。

最後にCさんは、「SNSで広がるなら、間違っていることをSNSで伝えていくことも大事だと思います」と語りました。偏見や誤解に抗う小さな発信が、分断ではなく共生へと向かう第一歩になるのかもしれない。

## おわりに：理解と対話、自身の言葉と態度の見つめ直し

「外国人が優遇されている」という言葉の陰には、制度や立場への無理解だけでなく、社会全体に漂う不安や分断の空気があるのかもしれない。Aさん、Bさん、Cさんの言葉から見えてくるのは、表面的な“対立”ではなく、事実を確かめ、互いを理解しようとする姿勢の大切さです。多様な背景を持つ人びとが共に生きる社会をめざして、いま一度、私たち自身の言葉と態度を見つめ直すことが大切ではないでしょうか。

まずは事実を見てみよう！ 「外国人優遇」デマあれこれ

**外国人が土地を買うから日本人が住めなくなる？**

海外の人が土地を買っても、当然日本の法律が適用されます。外国人の不動産投資は、政府の進めてきた規制緩和やアベノミクスによる円安が招いた結果、土地を買う人の国籍ではなく、そもそも投機目的の購入を規制すべきです。

**日本人より生活保護を受けてる？**

この10年で在日外国人は約1.7倍に増加。しかし生活保護利用は約1万人減少しています。生活保護利用者のなかで「世帯主が外国籍者」であるケースは2.9%にすぎず、外国籍と言っても実際に利用できるのは、定住者・永住者等に限られます。

**外国人の犯罪が増加？**

実際には外国人の検挙件数は2005年をピークに減少しています。刑法犯の起訴率も全体36.9%より高い41.1%となっています。

**健康保険にタダ乗り？**

保険料を支払う被保険者のうち外国人の割合は2023年度で4%。一方、外国人の医療費は総医療費の1.39%にとどまっています。保険料を納めていても使わない外国人の方が多いのです。

**留学生を特別扱い？**

文科省の博士課程・支援制度「返済不要の1千万円」の約6割は日本人が受給。日本に滞在している留学生(33万人超)のうち97%が公的支援なしに仕送りやアルバイトでやりくりしています。

**あなたができること**

**署名に参加する**

国会議員はデマ・差別を止め、人権と憲法を守る職務を果たしてください！

<https://chng.it/fmV9D2tfn>

**このフライヤーをSNSでシェア**

身近なひとにも話してみよう！

**いろいろな街頭宣伝に参加**

さまざまな活動がおこなわれています！

**この書籍もおすすめ！**

「差別はたいして悪くない人がする」

キム・グハ(著) 伊地景(翻訳)

#大阪 NO HATE 街宣 | 大阪から差別に抗う市民有志

↑自分ではうまく説明できない時のために

## 第1回人権啓発セミナー

# 障がい者と人権を自分ごとと考えるために ～NHK『バリバラ』を通じて伝えたかったメッセージ～



2025年8月30日(土)、八尾商工会議所において、バリバラご意見番の玉木幸則さん、バリバラ制作統括森下光泰さんを迎えての対談方式講演会を開催しました。

### NHK『バリバラ』とは？

2010年4月～『きらっといきる』のなかの月1回企画として始まり、2012年4月～週1回の定時番組『バリバラ～障害者情報バラエティー』として放送開始。2016年4月～みんなのためのバリアフリーバラエティー『バリバラ』へと衣替えし、9年間様々な企画を放送。2025年3月に放送は終了しました。2013年に成立し、2016年に施行された「障害者差別解消法」は、障害者権利条約に批准するための国内法の整備でしたが、1970年代のカナダの団体「ピープルファースト」の、「障がい者としてでなく、ひとりの人間として」という理念から始まった運動「私たちのことを私たち抜きに決めるな(nothing about us without us)」が、バリバラの理念の背景にありました。

### 笑いを武器に障害者のイメージを変える！

「SHOW 1 グランプリ」をみた方が、「笑っていいのかわからない。」というほど、障がい者が出演者となり視聴者を笑わす企画。内容で笑うのであって、障がいを笑っているわけではないのに、笑っていいのか迷うのは、視聴者への問いとなってきたのではないかな？

ノーマライゼーションという言葉により、障がい者の存在が可視化されはじめた頃に、社会に受け入れられるようにメディアで描かれてきた障がい者は、「壁を乗り越える頑張る障がい者」だった。バリバラでは、この壁を作っているものや、壁の存在そのものに焦点を当ててきたのだと思う。

### 合理的配慮(必要な調整の義務化)：つまりどういうこと？

英語で言うと、「Reasonable accommodation」なんだけど、Reasonableって、日本では「お値打ち価格！」みたいな使われ方をしているけど、使い方がまちがっている。「理にかなった」「筋道が立ってる」って意味で、本来は、「値段相応、ぼったくってない！」という意味。Accommodationは、集団の中にある調整という意味で、つまり合理的配慮というのは、「その人らしく生きていくための理にかなった工夫・調整をし続けること」ということになる。法的に、今できることを考えることが義務になったよということ。障がい者にとってのバリアの存在は、健常者にはわからない。バリアは障がい者にくっついてるものじゃない。健常者がデザインし

た社会に気づかずに作ってしまう。障がい者が声を上げて、見えなかったバリアが可視化されたら、「うるさいなあ」じゃなくて、必要で可能な調整を話し合って考えようという考え方なんです。

「みんなのためのバリアフリーバラエティー」へ

障がい者だけでなく、みんなのための番組になっていった。番組の中で、さまざまなマイノリティ性をもった人たち（LGBTQ、外国人、部落ルーツ、アフリカ系・・・）との出会いから、マイノリティを社会的弱者にしてしまう仕組みがあるのではないかという気付きがあった。「いい番組やったねえ。終わったけどねえ、、、。」

多様性の尊重というけれど、誰もがマイノリティになりうるし、だれにとっても「自分事」で、「誰一人取り残さない」という社会の実現をみんなだめざしたいですね。テレビが作るわけじゃないから、みなさん一人一人の生活の場でも作っていきましょうね。

### 【参加者の感想】

・障がい者差別解消法の本当の意味が分かってよかった。そしていつでも、健常者がマジョリティーではない、無くなることであることをよくかんがえなくてはいけない。NHK バリバラも見たことはなかったが、また番組を再活動してほしい。

・障がい者の訴えがなくても、想像して配慮する。これが障がい者だけでなく、すべてのひとに住みやすい街にする。もっともっとひとにやさしい街にしたいと思います。皆さんで考えましょう！！まず、本人に聞いてみる。本人なしでは解決しない。

・時々バリバラを見ているつもりだったけど、あーそうなのか、当事者やスタッフはそこまで考えていたのか！と気づいた。本人が語るこの場面に立ち会う、自分の考えを表明することが大切ですね。

## 八尾市民のパレスチナ学習会

8月5日、八尾市人権協会を本部においた八尾パレスチナ緊急アクション実行委員会が、『ガザを知って、ガザを伝える。

八尾市民のパレスチナ学習会』を開催しました。講師は、パレスチナとつながる写真展 PROJECT マクルーバに依頼しました。学習会に併せて、7/27~8/5には、マクルーバメンバーが過去に撮ったパレスチナの写真展示も、プリズムホール回廊ギャラリーにて開催されました。

この学習会を6月に企画した時点で既に、何万ものパレスチナの人々が死と傷と飢えと隣り合わせでした。イスラエルがイランに攻撃を仕掛けたのも、この時期でした。そんな状況下のパレスチナについての学習会を、『今』ではなく、2か月後に設定した自分たちへの葛藤から、6～8月までの間、近鉄八尾駅、JR八尾駅前、スタンディングアクションも複数回行いました。

学習会当日は、当時の石破茂首相に、パレスチナの国家承認や、イスラエル制裁を求める巨大ハガキアクションを行いました。そんな私たちの声もむなしく、未だなんの取り組みも行われず、どころか平和への道を逆行している日本政府に、日々無力化させられてしまいます。

八尾パレスチナ緊急アクション実行委員会



写真展の様子



巨大ハガキを投函



駅前でのスタンディングアクション。パネルを持って、この写真展と学習会のフライヤーを配りました。

## ～八尾市人権啓発推進協議会 第1回人権啓発推進委員養成研修～

テーマ：偏見・差別を生み出す心の仕組み  
—社会心理学から考える—

講師：立命館大学総合心理学部 准教授 村山 綾さん

日時：2025（令和7）年7月16日（水）

午後2時30分～4時15分

場所：八尾市文化会館プリズムホール4階会議室1

八尾市人権啓発推進協議会は、差別のない明るいまちづくりの推進に向け、さまざまな取り組みを進めており、各地区福祉委員会に5名置かれている「人権啓発推進委員」の人権意識の高揚を図ることを目的として、毎年、年5回「人権啓発推進委員養成研修」を実施しております。

第1回は、「偏見・差別を生み出す心の仕組み—社会心理学から考える—」をテーマに、立命館大学総合心理学部 准教授 村山 綾さんにご講演いただきました。自分が持つステレオタイプ（多くの人が持っている固定観念や先入観）に気づき、偏見・差別について考えることの重要性を学ぶことができました。

### 【参加者の感想】

・人は知らず知らずのうちに「ステレオタイプ」をつかって、ある程度人や物事を判断していることがわかった。社会心理学の面白さが少しわかった。

・ステレオタイプは初めて聞いた言葉でしたが、偏見と差別の違いも少し理解できました。

・偏見、差別に気を付けて生活しているつもりでしたが、今後深く考えて生活していきたいと思いました。

・偏見を少なくしていくことが大事。研修などを通じて気づきの機会を常につくっていくことが必要だと思った。

・むずかしいテーマでありましたが、何となく自分の中で偏見、差別につながっていく事の発見、



良かったです。心掛けて、気を付けます。気付いて良かったです。

## 映画「52 ヘルツのクジラたち」上映会

内容：映画「52 ヘルツのクジラたち」上映

日時：2025（令和7）年8月17日（日）14時開始

場所：八尾市文化会館プリズムホール

5階 レセプションホール

八尾市人権啓発推進協議会では、人権尊重の精神に基づき、例年実施している「みんなのしあわせを築く八尾市民集会」や、各地区福祉委員会で実施して地区人権研修など、全市民を対象にした人権啓発事業を実施しております。今回は、映画を通じて参加者に、児童虐待や人と人とのつながりについて考えていただく機会にするため、人権啓発映画上映会として「52 ヘルツのクジラたち」上映会を実施しました。

（参加者アンケートより）

・この物語を見ることが出来てよかったです。見えない障害や個性で苦しむ人はたくさんいると思います。少しでもそういう方が生きやすくなる世の中になると良いと思います。

・つらいシーンが多く涙なくしては見られませんでした。誰かのために役に立てる人、助けることのできる人になりたいと思いました。

・平穏と思われる日々の中に、このような問題が多く起こっているのだと実感いたしました。

・人の思いは、なかなか簡単に伝えることも、気づくことも難しいけど、分かりたい、つながりたいと思う気持ちを持つことで、少しでも人と人とのつながりが広がり、孤独な人が減れば良いと思った。

・虐待、ジェンダーについて考える機会となり、大変学びになった。最後のシーンでは、それぞれ問題を抱えながらも地域で過ごしており、地域で様々な人を受け入れることが大切だと思った。



2025年度

# じんけん楽習塾

じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

今年度のじんけん楽習塾が無事終わりました。じんけん楽習塾は1998年から続いている人権学習講座です。ここでは、参加者で企画を考え、講師選びや連絡を行います。その企画会議で情報交換しながら交流するのも学びになっています。

## ●第1回…5/7

「ジロジロ」差別から深める外国人への差別問題～問題を自分たちに引きつけながら考えるために～ 講師：森実さん（識字・日本語連絡会）  
感想：ジロジロ見られたことは印象強くても、見たことは印象が弱いということは、無意識さや自分ごととして考えられていたかどうかに関係していると実感した。また、見るという行為を深く考える良い機会となった。

## ●第2回…5/28

核時代を生きる当事者としてできる核兵器をなくすための選択 講師：倉本芽美さん（KNOW NUKES TOKYO 共同代表、核兵器をなくす日本キャンペーン 学生スタッフ）  
感想：平和とは？と問われると「戦争と平和」が浮かぶ。戦争がなければ平和なのか？今、日本は平和なのか？防衛予算は抑止のためと増え続ける。ついその予算を他に回せばと考えるくなるが、予算の取り合いでなくて根本的な平和について考えたいと思った。

## ●第3回…6/11

セックスワークイズワーク風俗業に対する差別 講師：村上薫さん（現役風俗嬢）  
感想：セックスワークが労働として認められる社会になれば、いろいろな人が住みやすい社会になるのでは。セックスワーカーの問題が、それを囲む社会の構造や法制度にあるというのは、全ての差別にも共通するものだと思う。

報告



## ●第4回…6/25

「部落フェミニズム」を書く、読む、語る 講師：瀬戸徐映里奈さん（近畿大学人権問題研究所教員）・坂東希さん（大阪公立大学教員）・熊本理抄さん（近畿大学人権問題研究所教員）  
感想：差別問題を個別単体でとらえるのではなく、複合差別としてとらえることの大切さと難しさ、また、個別の差別についても共通性はあるものの一人ひとりの生い立ちや経験にしっかりと向き合いながらとらえることの大切さを感じました。

## ●第5回…7/9

ジェーン・エリオットの「差別体験・ワークショップ」から学ぶ 講師：富岡美知子さん（異文化コミュニケーション・トレーナー）  
感想：人の痛みがわかるには自分も同じ痛みを経験すればわかる。参加型で深く学ぶことの意義は伝わりました。でも、怖さも・・・実際あります。マイノリティの立場にたって考えることができる、そんなおとなに成長してほしいし、おとなができることたくさん考えていこうと思います。

## ●第6回…7/23

立ちどまり考える時間～時事ネタから私と社会を振り返る～ 講師：大谷真砂子さん（じんけん楽習塾・NPO 法人シスターフード大阪）  
感想：立ちどまり考える時間って本当に大切だなと感じました。いろいろな人と正解のない話をする、たくさん気づきがあるなと思います。相手と話すこと、きくことを大事にしていきたいと思います。

# 世界人権宣言パネル展

八尾市、八尾市教育委員会、世界人権宣言八尾市実行委員会の三者共催による「世界人権宣言パネル展」が、9月20日（土）今年もアリオY A O 2階オレンジコートにて開催されました。パネル掲示には、世界のトップアーティストが世界人権宣言各条文を描き、絵本ライターの中川ひろたかさんが編集した『ひとはみな、自由』を展示しました。トップアーティストがそれぞれの感性で表現した各条文の絵は、とても引きつける掲示となっており、熱心に鑑賞されている人の姿もみられました。

差別落書き防止啓発パネルは、八尾市内で実際に発生した差別落書きを掲示することにより、落書きの存在を知り、関心を持ってもらい誰もが落書き行為者にならないことをめざして展示しています。参加者のアンケートでは、7割近くの方が落書きの存在を知らなかったと回答しており、今後も引き続きパネル展開催の必要性を感じています。



来年もアリオY A Oにて開催予定です。ご参加よろしくお願ひします。（事務局）

（参加者アンケートより）

・差別があることは知っていたが、どこか他人ごとだった。これを機に自分ごととして、考えていきたいと思った。

・人権の大切さを改めて知ることが出来て、すごくよかったです。

## 八尾市立図書館と八尾市男女共同参画センター「すみれ」とのコラボ企画 『脳トレ クイズラリー』の開催（申込不要）



★ 開催日時：2025(令和7)年10月31日（金）～11月26日（水）★

『脳トレクイズラリー』とは、図書館とすみれにあるクイズを2つ集め、クイズの答えを考えるイベントです。正解した方には、「すみれ」でプレゼントをお渡しします。

※図書館に置いてあるクイズは、全館同じクイズになります。

### ★ 男女共同参画に関する図書を集めた特集コーナーも同時開催 ★

- ・八尾市立図書館内と「すみれ」にて、男女共同参画に関する特集コーナーを設けます。
  - ・11月12日～25日は、『女性に対する暴力をなくす運動』期間です。
  - ・みなさん、「パープルリボン」はご存じでしょうか。
- パープルリボンには、「女性に対するあらゆる暴力をなくしていこう」というメッセージが込められています。

この機会に、男女共同参画社会の実現に向け、考えてみませんか。

詳細は、ホームページをご覧ください⇒

問合せ：八尾市男女共同参画センター「すみれ」 電話：072-923-4940



## 白根さんと考えよう! 世界の人権54

国際NGO「CCPRセンター」「ISSYO」所属 白根大輔

### 「普通」じゃない

私たちの生活の中で、「普通」という言葉が使われる頻度はどれくらいでしょうか？そのうち、何を指して「普通」としているのかいまいち分からないという時はどれくらいあるのでしょうか？

先日、とある介護職員初任者研修用の教科書を見る機会がありました。その中の「人権と尊厳を支える介護」という節で、「ノーマライゼーション」という考え方が、介護における重要な理念の一つとして紹介されており、冒頭では、もともと障害者福祉の分野で唱えられた考え方で、今では「誰もが差別や偏見なく、地域で普通の暮らしを送るといふ人権の問題としてとらえられる」ようになったと説明されていました。介護に関する教科書という文脈から、なんとなく言いたいことを憶測しましたが、ここで言う「普通」は一体どのようなものを指しているのかわかりませんでした。その後の説明の中でも、「ノーマル」や「普通」という言葉が頻繁に使われる一方、これらが実際どの様なものを指しているのかという説明はなく、頭の中がモヤモヤしてきました。

さらにこの教科書ではノーマライゼーションを、障害を持つ人の「日常生活様式や条件を、社会の普通の環境や生活方法に可能な限り近づけること」と定義した、スウェーデンの方の文章の翻訳が色付きの図表で紹介されていました。知的障害や身体的障害を持つ人を念頭として書かれたこの文章は、「ノーマライゼーションとは…」で始まるいくつもの段落からなる詩のようなものですが、その中には、例えば、「普通の服を着る」、「男性、女性どちらもいる世界に住む」、「子どもも大人も、異性との良い関係を育

む」、「異性との交際に興味を持つ」、「大人になると、恋に落ち、結婚しようと思う」というものがあり、最後は「普通の場所で、普通の大きさの家に住めば、地域の人達の中にうまくとけ込める」という文で締めくくられていました。

私の誤解もあるでしょうし、翻訳文であり、本来スウェーデンの作者が言いたかったことは違うのかもしれませんが、この教科書はここに羅列されたことがいわゆるすべての人が持つ「普通」であり、障害を持つ人もそれらの「普通」を享受できるように、社会や制度が整備されることが重要で、また、周りの人と同様にしていれば「うまく地域にとけ込める」と言っている様で、頭の中のモヤモヤが余計曇りました。スウェーデンの作者が暮らしていた地域・社会ではこれらがすべての人に共通する「普通」だったのででしょうか。また、ここに挙げられた「普通」がすべての社会に適用される場合、例えば、周囲の人と違う服を着たい人や、二元的性別でない人、異性と良い関係を持ってない人、異性との交際に興味のない人、結婚しない人はどうなるのでしょうか。普通ではないのでしょうか。周囲にうまくとけ込められない人は、周囲の人の「普通」を受け入れなければならないのでしょうか？

「普通」は誰が決めるのでしょうか。多数者の価値観に基づいた「普通」は、必然的にそこに当てはまらない少数者を排除してしまいます。悪気やその気がなくとも、自分の「普通」を他の誰かに押し付けた時、そこに当てはまらない、「普通じゃない」に対する偏見や差別が生まれるのではないのでしょうか。

自分の「普通」は自分が決めて良いでしょう。また、それぞれの人にそれぞれの「普通」と「普通じゃない」があっても良いはずで、自分が普通じゃないと思うことを無理に理解する、受け入れる必要もないはずで、本当に差別や偏見を無くそうとするなら、地域や社会は多数者の普通に合わせた枠組みを作るのではなく、無数にある個々の普通と普通じゃないを全て受け入れられるような整備が必要なのではないのでしょうか。

出会いを楽しんで  
PART, 4  
祭り と 万博  
(私の万博体験)  
中辻 えり子

2025年大阪・関西万博(4/13～10～13)では、大阪各地のだんじり・やぐら・太鼓台が大集合する大阪の祭り(5/9・10)が開催されました。八尾のふとん太鼓の出場もあり、ふとん太鼓やだんじりが巡行する“八尾の祭り”を海外の方を含め大勢の方達に知ってもらい、楽しんでもらおうと「“八尾の祭り”を楽しむわくわく実行委員会」として、昨年より準備を進め、例年発行している「祭りまっぷ」夏号・秋号の前に春号を作成しました。表面は八尾市内のふとん太鼓やだんじりの担ぎ手達が着るはっぴ一覽で、今年は新調されたはっぴも載せています。見開くと、江戸時代摂津図絵のふとん太鼓の祭りと、祇園祭にさかのぼる日本の祭りの起源とともに“八尾の祭り”を紹介したまっぷとなりました。紹介文は英語への翻訳も行いました。環境への配慮から会場で自由に手に取ってもらう配布は控えることになり、興味のある方への手渡しと、紙面のQRコードや八尾市ホームページからの閲覧での紹介となりました。

5月10日。初めての万博入場は西ゲートから。16,000人収容の祭り会場EXPOアリーナ「MATURI」(祭りアリーナ)はゲート近くにあり、祭り出演のはっぴ姿の団体も多く並んでいました。荷物検査後9時に西ゲートを無事通過。実行委員会の仲間5人とは連絡を取り合いながら祭り定刻に落ち合うことにして、大屋根リングをくぐりぬけて先に各自でパビリオンを見て回ることにしましたが、中の広いこと！。海外パビリオンのイタリア館に入館後、周囲2kmの大屋根リングを少し体験ウオーク。多くの国が集まる commons の建物内は世界旅行の気分です。このような建物がまだまだあります(commons A～F)。

多くの来場者が集まった広い



祭り会場のアリーナには、大阪各地から40基のふとん太鼓やだんじりが並んでいましたが、だんじりが多かったのは意外でした。八尾のふとん太鼓出場は南本町の矢作神社。八尾市長も応援に来られていて、祭りまっぷを手渡すことができました。各地区から1基ずつ鉦や太鼓に合わせて勇壮に中央に進み出て行きます。矢作神社の担ぎ手達は涼やかなブルーのはっぴ姿です。太鼓の音に合わせて見事な担ぎ上げを行いました。2面の大スクリーンにも映し出され、掛け声と太鼓の音が響いていました。

歩いて廻ることで体力を維持して海外旅行が体験できる機会は今年しかない、万博の通期パス購入を決めたのはその数日後。2回目の万博は、5月21日。東ゲートで入場を待っている間に声を交わしたのは、新居浜から来られたご夫婦でした。祭りアリーナで「新居浜太鼓祭り」があるということです。徳島の阿波踊り、高知のよさこい祭りとともに四国3大祭りに数えられています。午後の祭りアリーナの来場者は多く、中央には大きな太鼓台が3基並んでいました。1基ごとの演技のあと、2基を寄せて同じ動きでの担ぎ合いや差し上げた手をはなすことも何度か。上に乗り込んでいる人の数も多いのです。司会者の説明によると太鼓台1基は5,000kg、高さ5mにもなる大きさと担ぎ手は150人。新居浜市出身の歌手水樹奈々の舞台からの応援と20分のコンサートの後、太鼓台の近くに行くことが出来ました。はっぴから岸之下地区とわかる年輩の方に声をかけると、合同の練習を行って250人が担いでいるとのこと。「自分のまちの祭りが一番！」の思いは同じでした。話をしていた時に、すぐ後ろのフェンス外側から「中辻さん。」の声が！。振り向くと、昨年まで勤めていた同じ職場の方。ご家族3人で来て、「近くで太鼓の音が聞こえたから入場してきた。」と。息子さんは八尾山畑のふとん太鼓を担いできて、青年団の団長として取り仕切りもする祭り大好き家族なのです。まさかの出会いに驚きでした。



少し前、改憲が話題でしたね。今は自民党が少し弱くなっているせいか下火になっているようにみえます。

でも、なぜ改憲が必要なのでしょう？

そもそも憲法ってなんなのでしょう？

学校で「納税の義務」や「戦争放棄」と習った断片の記憶があっても、全文読んだ事なんてないという人も多いのではないのでしょうか。

日常生活に憲法を意識することってあまりないですよ。実際の仕組みは法律や政令で運用されているので、憲法そのものを知らなくても暮らせてしまいますから。

だけど、憲法の中身を知らないまま「もう内容が古いから変えない」とか「これだと国が守れない」とか言われたら、賛否の判断は難しいでしょう。

そこでおすすめしたいのが『檻の中のライオン』です。

ン』です。

ライオンが国家権力、ライオンを閉じ込めておく檻が憲法です。たとえ話で難しい条文を噛み砕き、ユーモアたっぷりに説明してくれるので、楽しく学べる一冊です。

改憲論争が下火である今だからこそ、ゆっくり読んで、現行憲法のことを学ぶチャンスです。

決断を急がされると間違った選択をしてしまうことがありますから、この機会にぜひ一読を。

絵本版もあるので、子どもから大人まで楽しく読めます。

これからのこの国を考えるための、まず一步をこの本で踏み出しましょう。



檻の中のライオン  
梶大樹 / 著  
かがわ出版



けんぼう絵本 おりとライオン  
梶大樹 / 著 今井ヨージ / 絵  
かがわ出版



## じゃいちえ日記

VOL80

### 新たなステージ2

少しずつ世代交代の時期は、すぐそこまで来ている。ここまで来たらやるしかないと思い始めたことだ(プレッシャーがのしかかる)。

他事業所との兼ね合いなど「調整」しながら、日々の暮らしを継続。行き当たりばったりで、事前に予定を組むことが難しい(前月にある程度の予定のわかる範囲はOKですが・・・)。ヘルパーさんの支持する事や「家事援助と身体介護」の使い分けの線引きが難しい・こんがらがっているのは、私だけかも？

ところで食材買い出しは、現在、週1回ヘルパーさんと買物へ。後は独りで行くようにしているけれど、出来ないことだらけなので、方向転換

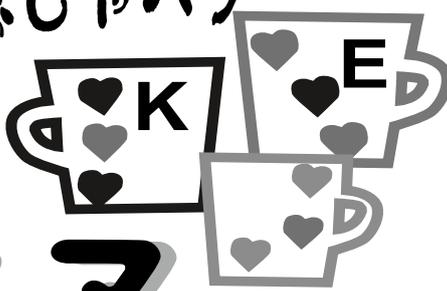
していこうと思う(電動車イスが壊れると独りで出かけられなくなりそう)。

今はネットスーパーや配食弁当などもある。段々とセルフレジが増え始めた。背景にはコロナ禍や『人手不足』が影響していると思う。独りで買物もするけれど、私はレジでの精算機が使えない。届かない・握力がない為、定員さんの手助けが必要となる。お店の方が手伝ってくれるので感謝している。

色々な手段をうまく「サービスや支援を受けながらできるかな？」と思いながら、今はとんちんかんな毎日を過ごしている。又、遊びの方も充実させていきたい、事業所との調整が難しいけれど・・・。

こうしている間にも月日が経つ。1日1日を大切に、時間の使い方(YouTubeの見過ぎに注意)も大切にしながら、しなくてはならない事をするのみに尽きる。【続く】

肩まにおしやべり



シネマ vol.62



スイマーズ : 希望を託して  
(2022年 イギリス)  
監督/サリー・エル・ホサイニ  
主演/マナル・イッサ ナタリー・イッサ

K: 今年は関西万博もあって海外からの観光客がすごく増えたね。そして選挙では外国人の受け入れに排外的な声も次々と上がった。同時に流れたニュースはパレスチナやウクライナの戦争。難民も増え続けている。日本は難民認定が極端に少ないけど、今はアメリカやヨーロッパでも難しくなってきた。この映画はオリンピックに出るために難民となった若者の話なんだけど、まだ現実とは思えない。

E: そうだね、いろんな環境で4年に1回のオリンピックを目指しているわけだ。サラとユスラ姉妹は元水泳選手だった父の指導を受けて代表を目指してきた。だけど内戦が続くシリアでは選考会も中止になる。そこでドイツの知り合いを頼って出国することに。

K: 非正規で国境を越えるというのはこういうことか。資金と体力と、何より諦めないこと。

E: 飛行機からボートに乗り継ぎ、暗い海を進む。定員オーバーでオンボロで浸水してエンジンも止まるゴムボート。心細さと恐怖しかなかった。

K: 荷物を捨てて泳げる人は海に飛び込んで、もうアラーに祈るのみ。難民を乗せたゴムボートの転覆事故はニュースで聞いたけど、そりゃ沈むよ、助からないよ。助けを求めても救助対象外と言われるし、もう無理、泣けてきた。

E: それでもサラたちは奇跡的にレスボス島に漂着。ユニセフの支援で一息つくこともできた。

次はハンガリー行きのバスと聞いたけど途中で降ろされて、線路をひたすら歩いたり、鉄条網を越えたり、やっとドイツの避難所に着いても難民認定されるまでは働くことも出来ない。このままではシリア代表になれない、絶望する中、難民選手団を紹介されたんだ。

K: オリンピックって国のために頑張る、国の対抗戦と思ってたけどそれだけじゃないということかな。

E: 難民選手団は2016年のリオオリンピックからあったんだよ。紛争や迫害で難民となった選手たちの救済のために結成されたんだって。でも国の代表にこだわる人はいるだろうなあ。

K: ユスラもはじめはそうだった。でもやっぱり泳ぐことはやめられない。サラは自分も経験した難民支援にむかう。これは実話なんだね、ユスラは東京オリンピックにも出場してたんだ。

E: 特別なふたりの話では終わらせたくないな。難民のこと、今でも続く戦争や紛争、そして迫害についても、映像は見ていても私たちはちゃんと知らない。戦後80年。今はまた戦前かも。日本にいてラッキーなんて言ってもらえない、ほんとうに。



# 勝手にきゃらふる 84

(八尾柏原精神障害福祉を考える市民の会 通称：きゃらふるやおかし)

## <私の精神病の歴史>

海田若菜

(本誌 118 号「勝手にきゃらふる 82」の続き)

大学を卒業し、私は実家に帰りニートになりました。退院したばかりで、先のこともどうやって生活していくかも、決まっていませんでした。

私は公務員の父と専業主婦の母のもとに生まれました。いわゆる一般的な水準の家庭だったと思いますが、両親の愛を受けて、何不自由なく成長しました。高校受験の時も大学受験の時も、両親は私の希望を1番に考えてくれて、私の自主性を尊重してくれました。高校も大学も私立に進学し、たくさんお金も使わせてしまいましたが、大学4年生で病気になった私を家族は責めるどころかいつも寄り添ってくれました。父は「若菜、大丈夫。若菜が働かれへんのやったら、お父さんがずっと働いて若菜を養ったるから」と言ってくれました。家族には感謝しかありません。

その後、精神科病院で近くの作業所を紹介されました。それは近鉄八尾駅近くにある、カフェの作業所で、私はそこに週1回1時間から通うことにしました。しかし、夜がうまく眠れない私にとって、昼間の時間に出かけるのは簡単なことではありませんでした。作業終わりかけの昼過ぎに行くのが必死でしたし、週1回1時間ということで中々慣れることが難しかったです。精神科病院のワーカーさんや作業所のスタッフさんに相談して、次に久宝寺にある内職をする作業所を紹介してもらいました。ここに可能な限り通うことになりました。初めは1日1時間で毎日通うことも難しかったです。少しずつ体を慣らしていき、環境にも慣れていき、作業所のスタッフさんや同じメンバーさんにも慣れていきました。そのような中で、あるスタッフさんからビーズで商品を作る手芸の作業を教えてもらうようになりました。自分の努力で商品が出来上がっていく、また次に違う商品を作れるようになるのが嬉しくて、毎日夢中で作業しました。この作業所のおかげで私は先が全く見えず、どう社会復帰していいかわからない状態から、朝起きて作業所に行き、作業をして、夜眠るというサイクルを作っていけるようになりました。また作業所のイベントや行事にも参加し、笑うことが増えていきました。



24th

# ひゅーまん

# フェスタ

# 2025

各コーナ-  
参加体験無料  
景品付き  
クイズラリー



## 11/14(金) 15(土)

11月15日(土)

和室：「子どもを育む4つの鍵」 ●10:00～12:00  
CAPおとなワークショップ 資料代：500円

5F

11月14日(金)  
レセプションホール：  
子どものためのプレイパーク  
遊びながら子どもの権利を学ぼう！



レセプションホール：  
劇団どろっぶ「里の風村～桃太郎撮影会～」  
●13:30～14:30



4F

会議室1：じんけん作品展示会  
会議室2：ボッチャで遊ぼう!!～点字の体験もあるよ!(※15時まで)  
会議室3：世界を知ろう！YICパビリオン  
回廊ギャラリー：団体パネル展示  
研修室：出かけてみよう！笑顔あふれるつどいの広場



ひゅーまんフェスタの  
マスコットキャラクターひゅーペン

会議室1：あなたの平和のカタチって？  
回廊ギャラリー：知ろう！考えよう！子どもの権利

3F  
展示室

ディスコンで楽しく遊ぼう！障がい者と共に(※15時まで) / 作業所の自主製品の展示・販売(※15時まで) / 識字・日本語教室作品展示会 / かけはしになりたい展 2025～みんなの笑顔が大好き～ / みんなでたのしくはたらくために / ヘルプマーク等の展示 / 平和について考えよう～八尾市の取り組みを通して～ / いつでも気軽に「すみれ」♪/ほっぷ・すてっぷ・じゃんぷ～ピンクシャツ運動 inやお～ / さまざまな人権課題のパネル展示 / 人権の歴史と差別意識の課題 (※一部 15時までのところもあります)

認知症になっても安心して暮らせるまちをめざして

外国にルーツのあるこどもたちとその仲間たちが  
発表します。応援よろしくお願いします！

2F  
大ホール



第44回 民族文化フェスティバル  
「ウリカラゲモイム」  
●10:20～12:30 ●13:40～15:40

1F  
光のプラザ

みんなの心をつなごう！「さをり織り」体験 / 小枝でクラフトづくり  
プラバン作り  
ヒップホップダンス発表 ●15:15～15:30  
和太鼓の演舞 ●15:30～

B2F  
小ホール

第48回 みんなのしあわせを築く八尾市民集会  
講演タイトル：「私も輝く！」  
内容：ソプラノ歌手によるトーク&コンサート  
定員：300名(当日先着順)  
●14:00～(開場 13:30～)

開催時間 **10時～16時** (※一部除く)  
場所 **八尾市文化会館プリズムホール**

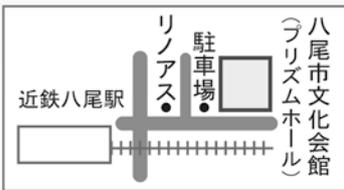
市民集会受付：本人通知制度の啓発について

- 手話通訳あり
- 要約筆記あり

イベント実施!  
まちのコイン



詳細はコチラ▲



【一時保育申込み】  
受付：人権政策課  
申込み期限：10/24(金)まで  
対象児童：1歳～小学4年生  
料金：1人め500円、2人め250円、3人め～無料



【共催(連絡先)】  
八尾市 (人権政策課 072-924-3830)  
八尾市教育委員会 (人権教育課 072-924-9854)  
世界人権宣言八尾市実行委員会 (072-924-9853)  
【協賛】八尾市企業人権協議会